

# 1.戦略の基本的事項

---

# 1. 戦略の基本的事項

## 1-1. 背景と目的

### (1) 背景

新宮町では、JR鹿児島本線をはじめとする充実した公共交通機関、国道や高速道路などの道路環境といった交通アクセスの良さや、町の西部に位置する白砂青松の海岸線を有する新宮海岸、玄界灘に浮かぶ相島、町の東部に位置するクスノキの原生林を頂く立花山などの豊かな自然といった町の魅力を一層活かす町づくりを進めてきました。

この結果、JR新宮中央駅の開業や大型商業施設の進出、マンション・戸建住宅などの建設による急激な人口増加へとつながり、平成27（2015）年国勢調査では全国で最も人口が増加した町となりました。

しかし、町が成熟し、生活が便利になる反面、車の渋滞や騒音などの交通環境や生活環境の問題も顕著化してきています。また、豊かな自然が多く残る東部地域においては、人口減少や高齢化が進む中で地域振興をはじめ都市施設などの整備が遅れ、西部や中部との格差は広がっており、暮らしやすい環境整備が求められています。

一方、地球温暖化などの問題への対策は恒久的な取り組みであり、地球環境への負荷軽減を図り、持続可能な循環型社会を実現する必要があります。特に平成29（2017）年以降の九州北部豪雨など、県内でも甚大な被害が発生したことや、昨今の世界、国の地球温暖化対策に関わる動向を受け、新宮町も具体的な取り組みを実施していくことを決意し、令和4（2022）年2月1日に、ゼロカーボンシティを宣言しました。

その第一歩として、職員による脱炭素プロジェクト会議を立ち上げ、令和3（2021）年6月に改正された地球温暖化対策推進法の趣旨を踏まえ、国が示した方針である脱炭素ロードマップに則して、住民、事業者、行政がそれぞれまたは一体となり実現可能な取り組みの検討・選定、全国的なモデルとなる脱炭素先行地域、脱炭素を促進するエリアの選定、新宮町地球温暖化対策実行計画素案の策定について検討を始めました。しかし、ゼロカーボンシティ実現のための具体的取り組みの検討を進めるには、当町の現状などの調査を踏まえた専門的な視点で選定することが必要であると判断し、新宮町再生可能エネルギー導入戦略（以下「戦略」という。）を策定しました。

この戦略により、東部地域・相島と西部地域の格差の解消や、豊かな自然を活用した地域の活性化などの課題を、脱炭素の取り組みと併せて解決する方策を検討し、今後策定予定の地球温暖化対策実行計画（区域施策編）に反映して解決していきたいと考えています。

### (2) 目的

町にどれくらいの再生可能エネルギーのポテンシャルがあり、それをどれくらい、どのように導入することでゼロカーボンシティを実現できるのかを確認するために、この戦略を策定しました。

# 1. 戦略の基本的事項

## 1-2. 位置付け

戦略は、新宮町における2050年までの脱炭素化を見据えた再生可能エネルギー導入目標や、その実現に向けた取り組み等を取りまとめたものであり、ゼロカーボンシティ実現に向けた再生可能エネルギー導入施策を推進する上での基本的な考え方となるものです。

戦略には、再生可能エネルギーの導入に向けて、新宮町の「地域特性」や「課題」を整理するとともに、「地域の将来ビジョン」をまとめ、ゼロカーボンシティを実現するための「再生可能エネルギー導入の検討すべき取り組み」を検討し、温室効果ガス排出量の将来推計を踏まえて「再生可能エネルギー導入目標」を定めています。今後策定する「新宮町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」に反映し、脱炭素社会づくりを推進していきます。



新宮町ゼロカーボンシティ宣言

### 新宮町ゼロカーボンシティ宣言

近年、地球温暖化に起因しているといわれる気候変動の影響により、世界中で様々な気象災害が発生しており、今後も、記録的な高温、大規模な干ばつ、豪雨、大型台風の発生等のリスクが更に高まることが予想されています。毎年のように日本の各所、九州、福岡県内でも気象災害が発生しており、新宮町でもいつ何時災害が発生するか分からない状況です。

地球温暖化の原因となっている温室効果ガスは、経済活動・日常生活に伴い排出され、国民一人ひとりのライフスタイルに起因する温室効果ガスも多く、国や自治体、事業者だけの問題ではありません。今、一人ひとりが地球温暖化に対する認識を強め、次世代へ繋がる地球温暖化対策の取組を実施する必要があります。

2015年に合意されたパリ協定により、世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて1.5℃までに抑えるように努力するという目標が世界的に共有されました。2018年に公表された国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）報告書では、平均気温上昇を1.5℃に抑えるには、2050年までに温室効果ガスの主な成分である二酸化炭素の排出量を実質ゼロにすることが必要であると示されました。この実現に向けて世界が取組を進めており、2020年10月、日本政府も2050年までに、温室効果ガスの排出を実質ゼロにする「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すこと」を宣言しました。

新宮町は、貴重な財産である白砂青松の海岸線を有する新宮海岸や相島、クスノキの原生林を抱く立花山などの豊かな自然環境と、誰もが安心して暮らせる生活環境を未来永劫持続させるために、住民、事業者、行政が一体となって、「2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロ」を目指す町として、「ゼロカーボンシティ」を宣言します。

令和4年2月1日

新宮町長 長崎 武利